

井口育紀写真展 記憶の肖像

2008年12月4日[木]～2009年3月31日[火]

主催：原村立 八ヶ岳美術館(原村歴史民俗資料館)

■ 開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで) ※ 常設展もご覧いただけます
休館日 12月29日(月)～1月3日(土)

井口さんは和歌山県の出身。現在、茅野市蓼科に在住の写真家です。八ヶ岳山麓に「井口育紀写真ギャラリー」を構え、四季折々にピグメント・プリント作品を発表しています。

雄大な自然や何気ない街並みの一角をモチーフにした作品は、その光と影、繊細な色調の表現が相まって、きわめてドラマティックな様相を呈し、画像の空間をまるで実際に眼前にしているかのような臨場感も湛えています。また鑑賞者の視線を画面の中に強力に誘引し、コンセントレーションさせる独自の視点や構図は、ある種の心地良い緊張感を感じさせます。単にランドスケープを切り取るのではなく様々なエレメントとしてフレームの中で再構築し、且つ新たに創り上げようとする作家の姿勢をそこに深く感じ、また共感を覚えます。

深山の木々の香りが漂い、砂浜の潮騒が聞こえて来るような五感に訴えかける井口さんの写真。その瑞々しく、時に詩的な作品の数々をどうぞお楽しみください。

八ヶ岳美術館 館長 前島孝一

【ギャラリートークのご案内】

日時 2009年3月21日(土) 14:00～15:00

場所 企画展示室

定員 15名(参加費無料、入館料別途)

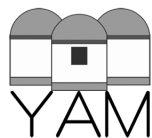
内容 作品制作のプロセスやモチーフへの思いについて井口さんご自身が語ります。

■ 常設展示

必見の、村野藤吾設計によるドーム型建物

八ヶ岳美術館の建物は、文化勲章受章者村野藤吾氏の設計によるものです。曲線を用いたドーム型で、館内天井にはレースのカーテンを絞り吊りにしてあり、落ちついた柔らかなりの中ですべてをゆったりとご覧いただけます。

- 美術作品 清水多嘉示：彫刻・絵画作品 津金雀仙：書作品
- 考古学資料 国指定遺跡阿久をはじめ、村内の遺跡から出土した縄文式土器・石器を展示



八ヶ岳山麓 高原の美術館
八ヶ岳美術館
原村歴史民俗資料館



■ 井口育紀 IGUCHI YASUNORI 略歴

30年以上も、随分前の事ですがある月刊誌の記事の背景に多分、大井川とその河原を手前にそして向うに何かの大きな工場がある写真が載っていたことがあります。そしてその写真が何かとても気に入ったことがありました。

それは色のない、殺風景で、地味な特に作品的な写真という訳でもなく誌面の一部としての背景に過ぎない写真でしたがなぜかその風景がとても長く心に残っています。

そしてこのあいまいな写真の持っていたものは何だったのだろうかとも今も考えることがあります。

- 1954年 和歌山県田辺市に生まれる。数年の後、同県新宮市に移住。
- 1981年 近畿大学大学院工学研究科修士課程修了。同年日本アイ・ビー・エム(株)入社。以後約19年間勤務。この間、二科展など公募展に作品を出品。
- 2000年 写真家としての活動を本格的に始める。制作プロセスのデジタル化についての検討を始める。
- 2003年 ピグメント・プリントによる作品の制作を始める。
- 2005年 滋賀県野洲町から八ヶ岳山麓に移住。活動拠点を移す。作品発表のためのミニマムなギャラリー空間のデザインを始める。同年建設に着手。
- 2006年 「井口育紀写真ギャラリー」での作品展示を始める。同年「風景との出会い」展を開催。
- 2007年 ギャラリー四季展(冬展・春展・夏展・秋展)を開催。
- 2008年 新たな表現を求め作品の制作を進めている。

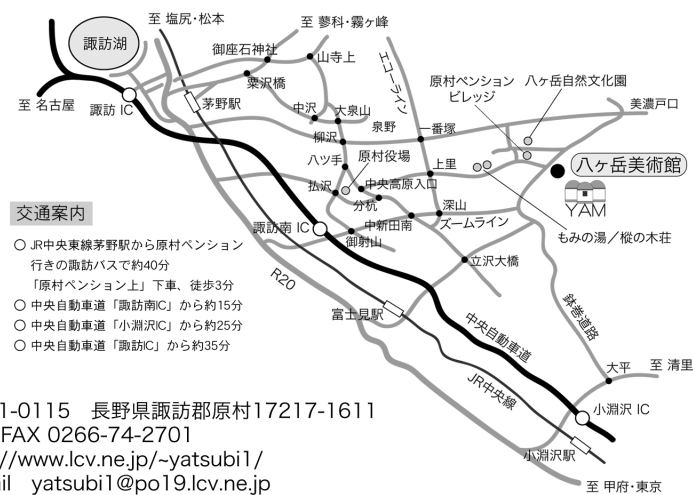


■ ご利用案内

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで) 休館日 12月29日(月)～1月3日(土)
入館料 一般(高校生以上)500円(450円) 小・中学生250円(200円)

()内は20名以上の団体料金

諏訪6市町村の小中学生は、バスポート・図書カード・学生証等の提示により、無料にて入館できます



〒391-0115 長野県諏訪郡原村17217-1611
TEL・FAX 0266-74-2701
<http://www.lcv.ne.jp/~yatsubi1/>
e-mail yatsubi1@po19.lcv.ne.jp